沿革

1999

3月 ソフトバンク(株)(現ソフトバンクグループ(株))の純粋持株会社化に伴う事業再編成を受け、金融関連分野における事業活動を統括するソフトバンク・ファイナンス(株)として独立。
7月 ソフトバンク・インベストメント(株)として設立され、ベンチャーズ・インキュベーション事業を開始。
10月 イー・トレード証券(株)(現(株)SBI証券)がインターネット取引開始。
11月 ソフトバンクベンチャーズ(株)(現SBIインベストメント(株))を完全子会社化。

2000

7月 当時日本最大規模となる出資約束金総額1,505億円のソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンドを設立。

2001

2002

2月 東京証券取引所市場第一部に上場。

2003

2004

7月 モーニングスター(株)を子会社化。

2005

5月 シンガポールの投資会社と有望な中国企業を投資対象としたNew Horizon Fundを共同設立。
7月 SBIホールディングス(株)に商号変更し、持株会社体制に移行。
10月 初の海外拠点として中国・北京駐在員事務所を開設。

2006

8月 ソフトバンク(株)(現ソフトバンクグループ(株))が子会社を通じて保有していたSBIホールディングス(株)の全株式を売却。

2007

2月 シンガポール現地法人 SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.を設立。
8月 私設取引システム(PTS)を運営するSBIジャパンネクスト証券(株)が開業。
9月 住信SBIネット銀行(株)が開業。

2008

1月 SBI損害保険(株)が開業。
4月 SBIファーマ(株)を設立。
11月 FX取引のマーケットインフラを提供するSBIリクイディティ・マーケット(株)がサービス提供開始。
12月 香港現地法人SBI Hong Kong Co., Limited(現SBI Hong Kong Holdings Co., Limited)が開業。

2009

2010

4月 中国・上海駐在員事務所を開設。

2011

3月 SBIソーシャルレンディング(株)が開業。

2012

3月 中国大連市に中国事業統括会社である思佰益(中国)投資有限公司を開業。
4月 SBIアラプロモ(株)が開業。
5月 SBI FXトレード(株)が開業。
6月 SBIマネープラザ(株)が開業。

2013

3月 韓国の(株)現代スイス貯蓄銀行(現(株)SBI貯蓄銀行)の株式を取得し、連結子会社化。

2014

2015

10月 タイにおける初のインターネット専業証券となるSBI Thai Online Securities Co., Ltd.が開業。
12月 出資約束金300億円のFinTechビジネスイノベーション投資事業有限責任組合(FinTechファンド)を設立。

2016

1月 欧州でALA関連医薬品事業を手掛けるドイツのバイオ企業photonamic GmbH & Co. KGの全株式を追加取得し、連結子会社化。
2月 2015年2月に連結子会社化したSBI生命(株)(旧ピーシーエー生命(株))が保険の引受を再開。
5月 米Ripple社と合弁でSBI Ripple Asia(株)を設立。10月には日本における次世代送金システムの構築をめざし「内外為替一元化コンソーシアム」を発足。

2017

3月 保険持株会社であるSBIインシュアランスグループ(株)のもとにグループ内の保険事業を行う6社を集約。
SBI FinTech Solutions(株)(旧SBI AXES(株))のもとにグループのFinTech関連事業を集約。
8月 ロシアにおける商業銀行SBI Bank LLC(旧YAR Bank LLC)を完全子会社化。

2018

1月 FinTechファンドの後継ファンドとして、AIおよびブロックチェーン分野を主な投資対象としたベンチャーキャピタルファンドSBI AI&Blockchain 投資事業有限責任組合(SBI AI&Blockchainファンド)を設立。
2月 インドネシア・ジャカルタ駐在員事務所を開設。